



〒470-0162
愛知県愛知郡東郷町春木白土1-242

株式会社喜多村
営業部 ニュースレター係

PTFE潤滑用添加剤 KT/KTLシリーズのご紹介

弊社では受託粉碎以外の事業として、PTFE潤滑用添加剤KT/KTLシリーズも販売しています。PTFEはフッ素樹脂の1つで、優れた摺動性、低摩擦性などを持ち、この微粉末をプラスチック・塗料・インキ・グリース等に添加することで、PTFEの優れた特性を付与できます。KT/KTLシリーズは創業以来40年以上にわたって、国内外で広くご愛用頂いています。KT/KTLシリーズには粒径・分子量違いで多くのラインナップがあり、他社品のカウンターグレードもございます。ご興味のある方、また他社のPTFE添加剤の廃番等でお困りの方、ぜひ弊社までお問合せ下さい。

【PTFE潤滑用添加剤についてのお問い合わせは下記まで】

営業部 営業1課 mail:info@kitamura ltd.jp Tel: (052)803-5151 Fax: (052)803-5190

PTFE潤滑用添加剤 KT/KTLシリーズ サステナブルマテリアル展に出展します

高機能素材 Week
東京展

開催日：2023年10月4日(水)～6日(金)
場 所：幕張メッセ ブース番号：30-48

今回、高機能Weekのサステナブルマテリアル展に出展いたします。一部のグレードを除いて、KT/KTLの原料は100%リサイクル品であり、SDGsに大きく貢献しています。会場にお越しの際は是非お立ち寄り下さい。

PFASはご存じですか？

FCJ 日本フルオロケミカルプロダクト協議会
Conference of Fluoro-Chemical Product Japan

「PFAS(有機フッ素化合物)」はご存じでしょうか？PFASとは世の中に存在する約12,000種類の有機フッ素化合物の総称です。現在、欧州ではすべてのPFASを制限する案が提出され、広く使用される有用なポリマーも含めた規制の検討が始まっています。この制限案に対し、弊社も参画している「FCJ」では、適切な情報発信及びアドボカシー活動を目的とし、活動を行っております。詳しくは下記URLのHPをご確認ください。

FCJ HP : <http://cfcp.jp/index.html>

国際粉体工業展
大阪 2023
POWTEX 2023
未来を
つくる PX

国際粉体工業展に出展します！

開催日：2023年10月11日(水)～13日(金)
(オンライン展：2023年9月27日(水)～11月10日(金))
場所：インテックス大阪、ブース番号：4-J03



弊社は今年も展示会に出展を予定しております。今年は受託粉碎とPTFE潤滑用添加剤の出展を分け、受託粉碎は高機能プラスチック展に代わり、大阪で開催される国際粉体工業展に出展します。

関西での展示会出展は久々で、東京の展示会ではお会いすることが難しかった西日本のお客様との交流の機会となればと考えております。十分なコロナ感染対策を実施した上で、皆様との交流を楽しみにしております。

4号館出入口の正面通路からすぐの位置に構えています。

ご来場の際はお気軽にお立ち寄りください。

事前登録は右のQRコードからお願いします。

事前登録ページ：<https://www.powtex.com/osaka/index.html>



受託粉砕による課題解決

喜多村では多種多様な材料をお客様からお預かりし、粉砕しております。材料を粉砕する目的は様々です。粉砕することで材料の特性が変化する場合があり、それが課題解決の手段になることがあります。今回は粉砕による課題解決事例を2件ご紹介いたします。

ケース1：原料を均一に混ぜたい(偏析解消)



課題：原料がうまく混ざらない

メーカーから購入した原料を混合して使いたいが、どうやっても均一に混ざらない

要因：偏析

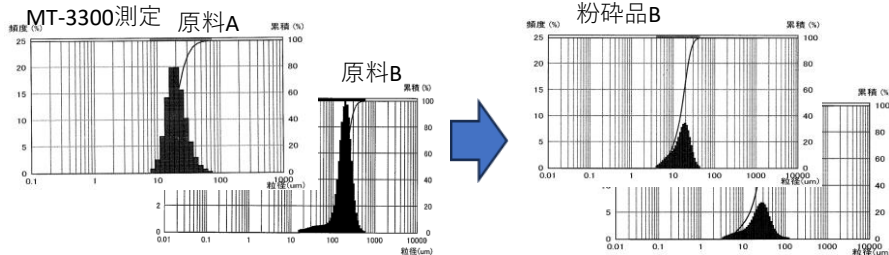
混ぜたい原料の大きさが異なるため、偏析が発生していると思われる。

★ 粗い方の原料を粉砕し、大きさをそろえてみましょう。

試作実施

処置：粉砕して粒子径をそろえた

混ぜたい相手原料Aの粒子径を測定し、それを目標値(Dp50=20 μ m)として粉砕しました。Dp50=15~30 μ mの範囲の粉砕品Bを作成しました。



原料A(Dp50=20 μ m)と
原料B(Dp50=200 μ m)を均一に混ぜたい

粉砕してDp50=20 μ mに近づけた

★ **結果：Dp50=20 μ mの粉砕品Bを採用して、均一に混ぜることができました。**



ケース2：粘性のコントロール



課題：スラリーの粘度が高すぎる

粉体を溶媒に分散させたが、粘度が高すぎて使いにくい。

要因：微粉量

粘度が高くなるのは微粉の影響と思われる、粉体の粒子径を全体的に粗くすれば、きっと粘度は下がる。しかし、粗い粒子の混入は困る。

★ 最大粒子径を維持しつつ、微粉を減らしてみましょう。

試作実施

処置：微粉の発生を抑える

Dp50、最大粒子径の目標を定め、過粉砕とならないように粉砕機の条件を調整して粒子径分布の異なる複数のサンプルを作成しました。

ロータップ測定

目開き	残留率	累積残留率
μ m	%	%
2000以上	1.29	1.29
1000~2000	24.41	30.7
500~1000	30.07	60.77
250~500	15.91	76.68
250PASS	28.32	100.00
TOTAL		100.00

目開き	残留率	累積残留率
μ m	%	%
2000以上	3.84	3.84
1000~2000	45.15	48.99
500~1000	24.30	73.29
250~500	13.04	86.33
250PASS	13.67	100.00
TOTAL		100.00

微粉発生を抑え、250 μ mパスが28.32%→13.67%まで減



結果：作成したサンプルを分散させた結果、スラリーの粘度は下がり、使いやすくなりました。



粉体に関わるお困りごとがございましたら、お気軽にお問い合わせください。



受託粉体加工、フッ素樹脂 (PTFE) 潤滑用添加剤

株式会社 喜多村

〒470-0162 愛知県愛知郡東郷町春木白土1-242

TEL: 052-803-5151 FAX: 052-803-5190

URL: <https://www.kitamuraltd.jp/> Mail: info@kitamuraltd.jp

お送り先の変更・配信停止ご希望の方は、お手数ですが、上記TELまたはMailにてご連絡ください。